

Children's World Water Forum Follow Up in Gifu

世界子ども水フォーラム・
フォローアップ  岐阜

2009



水のために、
日本でできること。

水 × 子ども = 未来

世界子ども水フォーラム・ フォローアップ in 岐阜 2009

開催趣旨

水環境や水災害、水汚染、水不足など、私たちの身近にあるさまざまな水問題や水の利用について、日本だけではなく、世界中において関心を深めている。

このような世界の水危機について国際間で協議し、解決に向けて具体的な指針を示すことを目的として「世界水フォーラム」が開催されている。

「世界子ども水フォーラム」は2003年に日本（京都・大阪・滋賀）で開催された「第3回世界水フォーラム」で主要な分科会のひとつとして第1回が開催され、第2回を2006年にメキシコで、引き続いて2009年3月にはイスタンブール（トルコ）で第3回が開催された。イスタンブールには、2008年8月に開催した「世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京2008」から選抜された6名の代表者が参加し、水問題解決のための行動等についての議論や発表を行い、世界各国の子どもたちと交流してきている。

「世界子ども水フォーラム・フォローアップ」は、この「世界子ども水フォーラム」を引き継ぎ、水に関する諸問題の解決策の普及・啓発と子どもたちのネットワーク構築等による人材育成を目的として、2003年より毎年開催している。

「世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 岐阜2009」では、次世代を担う中学校・高校の生徒を対象に、イスタンブールで得た経験や成果を共有し、世界の水に関する諸問題や自分たちが行っている水に関する活動等について、お互いに議論し、考え、発表する機会を提供することにより、子どもたち自身の活動の更なる発展を期待するとともに子どもたちのネットワークを広めていくことを目的として開催するものである。



目次

開催趣旨	01	第1分科会	13
開催目的	02	第2分科会	15
開催概要	02	第3分科会	17
特徴と効果	02	第4分科会	19
大会プログラム	03	第5分科会	21
大会の様子		第6分科会	23
1日目 / 7月29日	04	フォローアップ in 岐阜 2009 に参加して	25
2日目 / 7月30日	07	関連ウェブサイトのご紹介・参加者一覧	26
3日目 / 7月31日	10	実行委員・運営スタッフ一覧	26

開催目的

- ①世界子ども水フォーラム及びフォローアップ大会における経験及び成果を引継ぐ。
- ②水に関する活動を広げていくため、自分達子どもができることを議論する。
- ③子どもたちの水に関するネットワークを構築する。(同じ仲間がいることを知る。)
- ④次世代を担う若者たち、子どもたちを育成する。
- ⑤第3回世界子ども水フォーラム(イスタンブール)で得た情報を共有する。

開催概要

開催日程：平成21年7月29日(水)～31日(金)2泊3日

開催場所：岐阜市少年自然の家

主催：世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 岐阜 2009 実行委員会

共催：(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター

後援：文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、岐阜県、
岐阜県教育委員会、第30回全国豊かな海づくり大会 岐阜県実行委員会、
NPO法人 日本水フォーラム、NPO法人 自然体験活動推進協議会、
NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会

特徴と効果

- ・水に関心を持ち、さらに自ら活動している中高生を全国から募集
- ・水問題に関する作文提出による審査
- ・大会の運営は、OB・OGなどからなるファシリテーター等の運営スタッフが中心となって実施
- ・自分達自身の活動発表やグループ討議の結果を発表することによるスキルアップ
- ・自分たちの活動に対する改善と他への普及に向けてのネットワークの構築



大会プログラム

7月29日 水

- 12:00** 受付開始 (JR岐阜駅)
★分科会担当ファシリテーター等顔合わせ
- 12:30** JR岐阜駅出発 (バスにて移動)
- 13:10** 到着・移動
- 13:30** 開会式 (多目的ホール)
★開会宣言 (参加者代表)
★開会挨拶 (実行委員長)
★実行委員紹介
★開催趣旨説明
★岐阜県「全国豊かな海づくり大会」紹介
★記念撮影
- 14:00** オリエンテーション (多目的ホール)
★スケジュール説明
★本大会の注意事項
★館内利用の注意事項 (施設管理者より)
- 14:20** アイスブレイク (多目的ホール)
★全スタッフ紹介
★アクティビティ (名刺交換・ブレインストーミングの練習など)
- 15:45** イスタンブール参加報告 (多目的ホール)
★イスタンブール参加報告 (イスタンブール参加者)
★ユースの活動報告 (ファシリテーター)
- 16:30** 分科会① (各教室: 研修室2~4)
★各分科会で自己紹介レポート発表
- 17:30** 夕食 (食堂)
★各分科会で食事
- 18:30** 分科会② (各教室: 研修室2~4)
★各分科会でのWS
- 22:00** 就寝

7月30日 木

- 7:00** 起床
- 7:30** 朝食 (食堂)
★本日のスケジュール確認
- 8:30** 体験活動
★施設見学
自然共生センター見学
水辺共生体験館見学
- 12:00** 昼食 (食堂)
★各分科会でお弁当
- 13:00** 分科会③ (各教室: 研修室2~4)
★体験活動の振り返り
★各分科会でWS
- 16:00** 交流会 (研修室1)
★参加者全員でWS (かたもみ大会・質問ゲーム)
- 17:30** 夕食 (食堂)
★各分科会で食事
- 18:30** 分科会④ (各教室: 研修室2~4)
★各分科会発表準備
★各分科会成果取りまとめ
- 22:00** 就寝

7月31日 金

- 7:00** 起床
- 7:30** 朝食・後片付け等退所準備
- 8:30** 全体発表会 (研修室1)
★各分科会の発表 (発表15分, 質疑7分, 委員コメント3分)
※委員コメントは各分科会毎に2名 (6グループ@25分程度)
★意見交換
- 11:30** 昼食 (研修室1)
★さよなら交流会 (お弁当)
- 12:30** 閉会式 (研修室1)
★講評 (加地委員・可児委員)
★閉会宣言 (参加者代表)
★閉会挨拶 (中嶋委員代理)
★記念撮影
- 13:30** 後片付け・出発準備
- 14:00** 出発 (バスにて移動)
- 15:00** 解散 (岐阜)



1

大会の様子

1日目

7月29日 水

開会式



開会式後の全体写真



藤田実行委員長の開会挨拶



参加者代表の開会宣言



高木委員より「やまりん」と共に「全国豊かな海づくり大会」の紹介

開会式ではまず、地元岐阜県から参加している勝又義友さんから「今日からの3日間、みんなで一緒に水について話し合い、そして様々な水問題の解決に向け、今私たちが出来ることをみつけ、私たち自身が活動のさらなる発展へと繋げていくとともに、全国からの集まった仲間のネットワークを広めていきたいと思います。」と力強い開会宣言がありました。

続いて、藤田実行委員長から「これからの3日間、金華山・長良川に象徴されます山紫水明の環境の中、有意義な時間を過ごし、次代を背負って行って頂けることに繋がる経験をされるものと期待し、また、それを確信しております。」と開会挨拶を頂きました。

開会式のおわりに、高木委員より今回の開催地である岐阜県において、来年度開催される「第30回全国豊かな海づくり大会 ぎふ長良川大会」について大会マスコットキャラクターの「やまりん」と共に紹介しました。



ファシリテーター・記録係の紹介



1 大会の様子

7月29日 水



アイスブレイク



名刺交換



ブレインストーミングの練習



知恵の輪

開会式に引き続き、運営スタッフが、3日間の共通ルールを話し、その後、参加者全員でアイスブレイクとして、ミニゲーム（「知恵の輪」、「ブレインストーミングの練習」）を行いながら自己紹介や名刺交換をし、緊張をほぐし他の参加者と交流しました。

世界子ども水フォーラム報告

アイスブレイクで緊張をほぐした後は、今年の3月にイスタンブールで開催されました「第3回世界子ども水フォーラム」に参加した6名により報告が行われました。また、高校を卒業しても「水」について関わっていけるよう、大学生による「ユース」の活動について、紹介しました。



イスタンブール参加者による報告



「トルコのおもしろ話」を踏まえて報告



ユースの活動について

分科会



第5分科会

少し緊張がほぐれた後は、各分科会に別れ、自己紹介を兼ねて事前学習レポートを発表し、日々の活動などについて意見交換を行いました。その後、実行委員を交えて分科会ごとに夕食を食べ、参加者同士がさらに交流を深めました。1日目の夕食後、最後にもう一度各分科会に別れ、今回のテーマについて議論を開始しました。



第1分科会



第2分科会



第3分科会



第3分科会



第4分科会



第6分科会



2 大会の様子

2日目

7月30日 土



体験活動



自然共生研究センター

2日目は、岐阜県各務原市にある河川環境楽園内の自然共生研究センターおよび水辺共生体験館で、実験河川の見学や水流模型・ジオラマ模型を用いた河川の学習を行いました。

当初長良川での体験活動を予定していましたが、連日の豪雨による増水のため、中止になりました。

「長良川に入れたかった」という参加者およびスタッフからの意見は多かったのですが、これらの施設もめったに来ることが出来ないため、勉強になったようです。



実験河川の説明



水辺共生体験館・水流模型（下流）

ジオラマ模型（上流）

交流会



質問大会

また、午後からは、他の分科会の参加者との交流を目的に、「質問しながらかたもみ大会」や「グループ対抗の質問ゲーム」といったアクティビティを用いた交流会を実施しました。



かたもみ大会



大会の様子 2日目

7月30日 日



分科会



第5分科会

続いて夕食前には、もう一度分科会へもどり、議論しました。また、夕食後には最終日の全体発表会に向け、分科会での最後の討論を行い、夜遅くまで、発表会のリハーサル等の準備を行っていました。



第1分科会



第1分科会



第2分科会



第4分科会



第4分科会



第3分科会



第6分科会



全体発表会

最終日は、6つの分科会ごとに、議論した成果を発表し意見交換しました。カッパや災害リポーターが登場するなど、各班の個性を活かしながらユニークで分かりやすい発表に実行委員も他の参加者も驚かされました。



第1分科会



第1分科会



第2分科会



第2分科会



第3分科会



第3分科会



第4分科会



第4分科会



第5分科会



第5分科会



第6分科会



第6分科会



3 大会の様子 日目

7月31日 金



さよなら交流会



ファシリテーター・記録係・運営スタッフ集合

最後のプログラムの閉会式前に、参加者間での最後の交流として昼食を兼ねた「交流会」を実施しました。参加者たちは短い時間でしたが一緒に過ごした仲間たちとの別れを惜しんでいました。



日頃の活動のPR



第1分科会



お世話になったファシリテーター・記録係と一緒に。



第2分科会



運営スタッフ
佐藤 大地



運営スタッフ
灰塚 果苗



閉会式



加地実行委員より講評



可児実行委員より講評



中嶋実行委員代理・安田室長の閉会挨拶

閉会式では、参加者から「来年は記録係で参加したい」等、今後も意欲的に取り組む姿勢がうかがえる感想があがりました。続いて3日間参加された加地実行委員と可児実行委員からの全体講評では、加地実行委員「このような活動をずっと続けることはすばらしく、続けて、広げて、繋げていただくことを期待します。皆さんの未来がすばらしいものになりますように。」、可児実行委員「ファシリテーターや記録係、運営スタッフの頑張りや、参加者の知識の豊富さに驚きました。全国の各地域（北海道・東北・関東…など）で、集まることで日本中に輪が広まっていくと思うので、春休みや冬休みにまた集まることを願いたい。」と激励の言葉がありました。

次に閉会宣言として、参加者代表の會田成美さんと石澤純人さんから「この大会で得た意見や成果、つながりを私たち各自が地元を持ち帰り、他の子どもたちに伝えるとともに、水や環境についてまた新たな人と人とのつながりを結んでいきたい」。また、運営スタッフから参加者へ挨拶があり、感極まって涙するスタッフもいました。

最後に中嶋実行委員代理の国土交通省安田流域治水室長から参加者に「知識と知識が合わさって、活性化されている状態を地域に持ち帰り、もっともっと刺激を知り、体験してもらいたい。出会いの機会を良い方向に流れていくように。それぞれでがんばり、今日の体験を生かしてください」との閉会挨拶でフォローアップ in 岐阜 2009大会の幕が閉じました。



閉会宣言



ファシリテーター・記録係・運営スタッフ一同



閉会式後の全体写真



第1分科会

水による災害

～洪水や津波・土砂災害等～

災害による被害を軽減するために普段から行うべきこと。
また、災害発生時・災害発生後に子ども達ができること。

Members

発表の概要

「備えあれば憂いなし」



第1分科会は、いつ起こるかわからない災害について、子どもたちがどのように向き合えば良いかということ、今年身近で起こった山口県と福岡県の被災状況について現地リポーターに扮して発表しました。

浸水しているところに土のうを積んだり、川で溺れている人をスローロープがあれば救うことができることを伝え、「子どもたちにとって災害は縁がないと思わないでほしい。子どもたちでもできることを知って、学んで、伝えていきたい。」と力強く発表しました。



実行委員のコメント

- 災害はいつ来るかわからない。来たときにどうしたら良いか知ることが大事。ちゃんと逃げないといけないことを発信。逃げないほうがいいときもある。自分の家がどこまでつかるか、ハザードマップで勉強して安全確保してほしい。
- 水に関する災害は、自分の住むところで特徴が違ってくる。(山川海など) 身近な土を袋に入れることは重要な技術。本来は大人がやるものだけれど、子どもが出来ることは。「地域の防災力」につながると思う。

ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター
坂本 貴啓



記録係
津谷 瑛里

- 第1分科会は、一見のんびりしている子が集まっているようで、集合も食べるのも早くみんなの行動のテキパキさにびっくりさせられました。最初の日は緊張しているのが伝わってきたのですが、わきあいあいとした3日間が過ぎて大変良かったと思います。また来年、フォローアップでみんなと会えたらと思います。
- 今回、大会に参加するのが初めてで、すぐ最初緊張していて、子どもたちも最初は緊張していましたが、日を追っていくうちに打ち解けて、仲良く議論もできてたいへん良い大会になって素敵な思い出になりました。



石澤 純人
青森県 高2



岩橋 希
兵庫県 中2



吉野 智美
山口県 中3



木原 舞衣
山口県 中2



荒木 龍太郎
福岡県 高3



川原 大基
福岡県 高2



中富 由乃
鹿児島県 中2

備えあれば憂いなし!

〈体験談〉

- ・車に乗っていたんですが、ひどい雨で前が見えない状態でした。僕の町でも土砂崩れが起き、死亡者が出て、ひどい惨状でした。(アキキ)
- ・外に出たら道もみんな川でした。(とむ)
- ・すごい雨で、TVがうまく映らなかった。電気が一瞬消えた!! (まいまい)

〈体験談を聞いて〉

- ・同じ福岡県内に住んでいたが、被害はほとんど無かったので、体験談を聞いて、お兄さんがかなり違うことにとっても驚いた。(グクモウ)
- ・青森ではニュースでしか聞いた事がないから雨ですが、実際に話を聞いてあらためて実感が増えた。(シェフ)
- ・自分は経験したことがないので、状況被害を聞いて驚いた。(ゆし)



○私たちこんなコトやっています? ○

- ・直方市にある遠賀川水辺会館を拠点に、賞の習育中、中高生を対象とした交流会を行っています。(アキキ)
- ・防府市にある佐渡川を中心に、小さい子でもお風呂に楽しくできる、体験活動をしています。お母さんに防災サインを作成しました。(とむ)
- ・鹿児島県の薩摩川内郡にある高城川を中心に活動している高城川ネイチャークラブは、木炭団子などを川に投げ入れられています。(よしこ)
- ・私は農業高校で、授業の中で江戸川が氾濫した際に対応するための土の横溝を学んでいます。(シェフ)

○話を聞いて感じたコト○

- ・防災に関する活動を行っている団体も多く、参考になることが多かった。みんな絶対に楽しそうだし、元気イッパイ!! (アキキ)
- ・環境も、防災に大きく関わっているということが、自分にとって、すごいビックリさせられることでした。環境のことまで考えたりなれて思いました。(とむ)
- ・今までは、あまり災害のことについて考えていなかったけど、今回、みんなのいろいろな話を聞いて、真剣に考えるようになった。(よしこ)
- ・自分が知らない活動がまじり普通にすごいと思った。自分だけの活動だけでなく他の人の活動もこれからは取り入れてがんばってほしいと思った。(シェフ)



★防災に対する決意表明★

- ・今、子ども達は「災害が起こった時、自分達にできるコトなんてない」と思っているかもしれないけど、中学生や高校生でも、自分達で出来る防災活動をぜひやってほしいと思います。子ども達にそんな活動をも今後紹介していきたい!! (アキキ)
- ・子どもでも楽しくできる、防災活動をしてほしい。人と生動物が共生できる世をつくる活動をしたい。(とむ)
- ・ここで学んだことを、同じグループの人や、地域の人に口伝がけて、みんなに災害のことを、真剣に考えて、もらいたいです。(よしこ)
- ・みんなに防災の大切さを伝えて、「自分の所は大丈夫」とか思わなく、真剣に生き命でも死にたい。(まいまい)
- ・災害に備えて、地域の人みんな連携して対応できるようにやり合わせておきたい。また、自分でも防災活動が出来るようになりたい。(グクモウ)

※大人達は、こんなふうに私達を守っている!

雨の情報、水位の情報、山崩れの危険度など、そうした情報をいかに使ってもらおうという取り組みを行っている。また避難情報を流したりする。一般的な情報として洪水ハザードマップや土砂災害ハザードマップを出している。中学校の先生は生徒の通学路の安全確保や学校が避難場所になった場合の対応などを行っている。他にも雨などで教科書が濡れた場合の教科書の保障を行っている。このように大人達も私達が知らない所で様々な活動をしている。



第2分科会

水と自然環境の保全

水や川に関わる自然環境（生態系、水質、ゴミなど）を保全するために、子ども達が行うべきこと。

Members

発表の概要

「保全は三つのわっかで始まっていく」



第2分科会の発表は、保全へのきっかけは「体験活動」と「気持ち・意識」と「人の輪」という3つのキーワードから、ひとつのきっかけがどんどん大きな輪（バウム）へと広がっていくと、まとめました。

そのような広がり例を、清掃活動に参加して「人の輪が広がった」、「気持ちが変わった」ことを体験に基づき芝居形式で発表しました。また、各々が保全活動を行おうと思ったきっかけが何だったのか、そしてどのように広がって行ったのか、そして一人一人がどのように広めていくか発表しました。



実行委員のコメント

- 一人一人の活動のきっかけや動機がよくわかった。（バウムクーヘンの図にあった）+αでより深まっていくのがわかった。よくまとまっていたと思います。ありがとうございました。
- 体験活動の気持ち・人の輪の3つを挙げていた。カップというのは川の自然の多様性を象徴している。夜の暗さも昔と違う。自然に対する恐怖心や恐れ敬う気持ち、多くの人に体験してもらうために、無関心な人にも伝えネットワークを築いてほしい。

ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター
小野寺 希



記録係
鈴木 陵

- ファシリテーターとして、何回か参加させてもらっていますが、毎回みんなに教えてもらうことがたくさんあって、吸収するのも大変だけど、毎回うれしく思います。いろいろな地域からいろいろな考えを持って参加しているけれど、その気持ちと会った仲間を大事にしてこれからも活動を続けていってほしいと思います。
- 初めての参加で、最初どうなるのかと思いましたが、時間を重ねてみんなの話聞く中で、ちょっとずつ前のめりになったり、積極的に質問したりするのが見れた時はすごく良い流れが起きていると、うれしく思っていました。また、みんなのパワーや活動に対する気持ちが伝わり、こんなに真剣に活動している子どもたちがいることにすごく感心した3日間になりました。



石坂谷 沙織
茨城県 中2



三輪 圭吾
岐阜県 高1



戸田 竜哉
広島県 中2



西山 鈴
愛媛県 高1



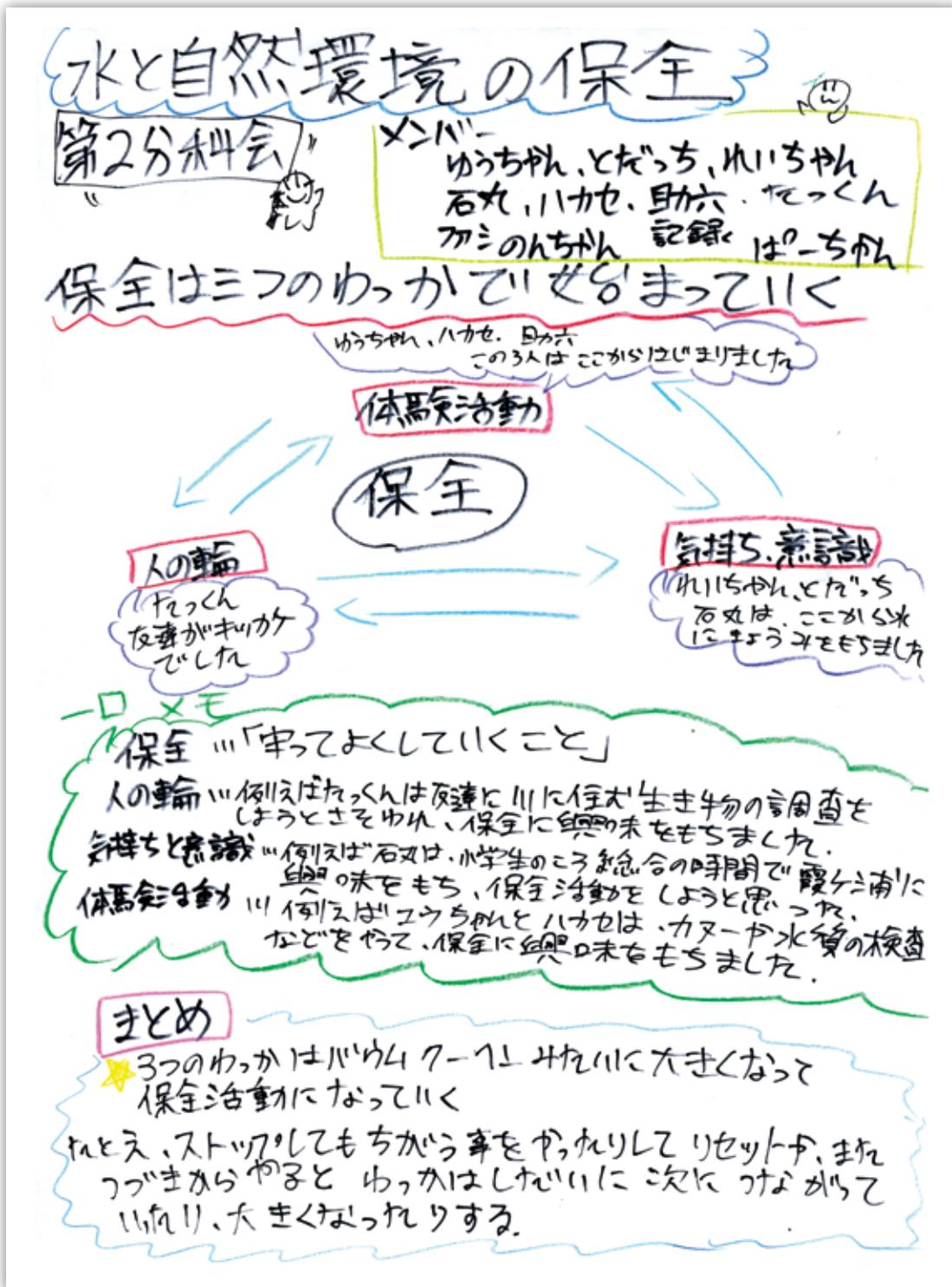
坂本 裕基
福岡県 高3



高橋 昂大
福岡県 中1



廣瀬 拓哉
鹿児島県 中2



水と自然環境の復元・再生

水や川に関わる自然環境（生態系、水質、ゴミなど）を復元・再生するために、子ども達が行うべきこと。

Members

発表の概要

「再生するための情報発信」



第3分科会は、環境を再生するには多くの人の力が必要ということから、「水問題に関心のない人達にどのようにすれば現状を知ってもらえるか。」という課題について、芝居形式で、「百聞は一見にしかず」をテーマとして、趣味の釣りから外来種がもたらす影響について知るという「知るきっかけ」を表現しました。

そして、多くの人が水環境に関心を持てるよう、今ある取り組みを利用した水環境に関する情報発信の方法を発表しました。



実行委員のコメント

- それぞれが体験したことと上手く具体的にまとめている。川や水の状況をよく見て、どうしたら良いか、行動した為その後どのように変化したかを知ることが大切なことがきっとみんなに伝わったと思います。
- 難しい問題に対して、「知る」ことの入り口は何でも良いこと、自然環境を破壊するのは人であり、解決するのも人であること、だから、アイデアを練って情報発信しないといけないことが人の責任であるということを具体的な例で劇化した工夫が良く伝わった。今の時代の子もたちから、このようなことばを聞けてうれしく思いました。

ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター
池田 幸子



記録係
荒川 桃子

- 今回、私の分科会は本当ににぎやかな大変な分科会だったため、思い通り、計画通りにいかないことも多かったけど、パートナーが本当に臨機応変に対応してくれたおかげで、すごく良い経験を積むことができたし、楽しむこともできた。また一つ自分のスキルアップ、かわいい子どもたちとの出会い、スタッフ同士のチームワークを持って本当に良かった。ありがとうございました。
- 初めての記録係でいろいろ大変でしたが、子どもたちがみんなで協力している姿を見てすごく感動して、私もいっぱいみんなから教わりました。みんなにさよならは言わないので、来年またこの大会で会いましょう。3日間ありがとうございました。



會田 成美
北海道 高3



是國 明星
茨城県 中1



八巻 宣仁
茨城県 中1



村上 誠一郎
広島県 中2



西川 有美
愛媛県 高1



出口 巧実
福岡県 中2



近藤 直喜
鹿児島県 中2

再生するための 情報発信

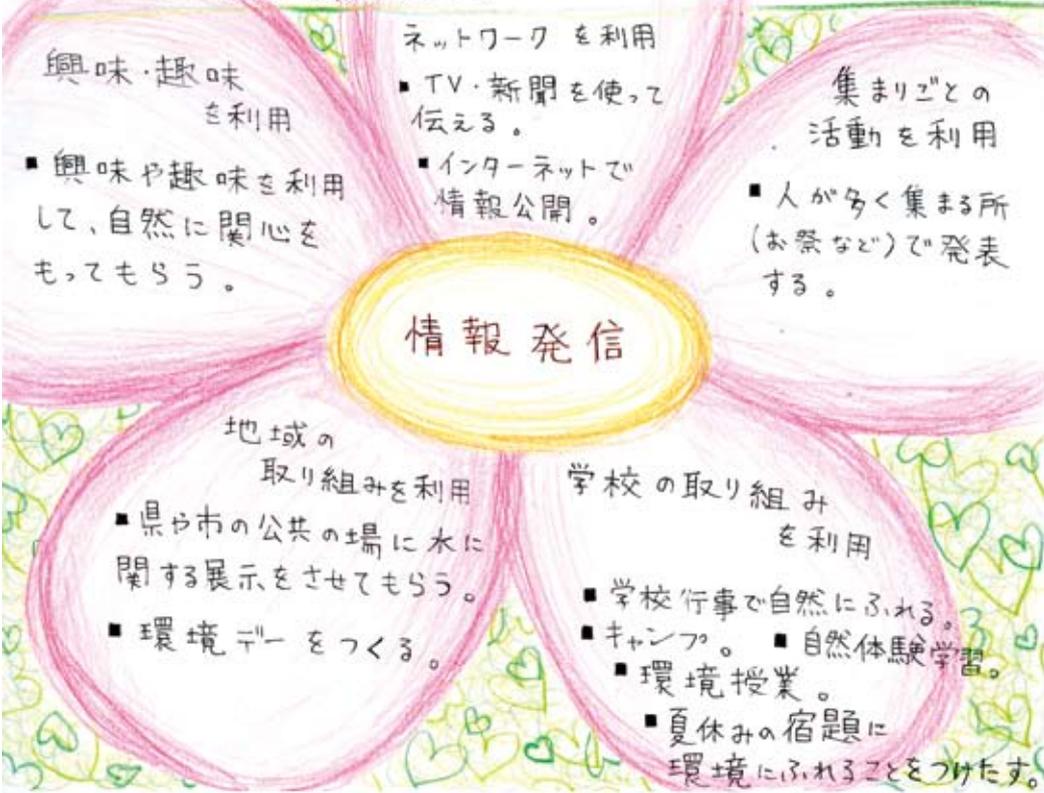
第3分科会

- | | |
|-------|-------------|
| 會田 成美 | 是國 明星 |
| 八巻 宣仁 | 村上 誠一郎 |
| 西川 有美 | 出口 巧実 |
| 近藤 直喜 | 池田 幸子 荒川 桃子 |

水と自然環境の復元・再生をするためには、活動を行なわなければ問題を解決することはできません。

1人がコツコツ努力しても、少しの力だけではあまり解決には近づきません。みんなで努力すれば解決する可能性が広がります。

みんなに水問題を考えってもらうために第3分科会は「情報発信」を行えばよいのではないかと思いました。



第4分科会

安全な川での体験活動

ボート等を使った川下りや生物調査等の川をフィールドとした体験活動を通して得られたことや伝えたいこと。

Members

発表の概要

「知ることが大切」



第4分科会は、「知る」「体験」「伝える」ことが川での安全な活動につながるとまとめました。川に流された体験から川の危険な環境を知ったことや、カヌーやEボートから救助方法を体験したことなど、全員が自らの活動体験から知ったこと・学んだことをみんなに伝え、安全に活動するためには救助方法や危険な場所を学び、川（自然）の状況に合わせて活動するべきであると発表しました。



実行委員のコメント

- 昔は、遊びは川で遊ぶくらいしかなかった。その後、「良い子は川で遊ばない」と言われるようになり、最近では、「良い子を川で遊ばせよう」という流れになっている。「知る」「体験」「伝える」とわかりやすく、すごい研究の成果だと思います。
- 「知る」「体験」「伝える」という大事なキーワードを議論のなかで見つけたことが良かった。今後、プロの違った体験談を聞いて、活動の幅を広げていってもらえたら良い。今日の発表はみんなにこのようなことがあるということを知ってもらう大事な話が詰まっていた楽しい発表でした。

ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター
中尾 浩子



記録係
川口 晋平

- ファシと記録係は2人で1人なんだと実感した3日間になりました。最終日に子どもたちがよせがきで「楽しかった!」と書いてくれたので、ファシとして最低限のことはできたのかなと思います。この3日間、私を支えてくれた7人の子どもたちと川口くんに感謝の気持ちでいっぱいです。大切な時間をありがとうございました。
- 初めての参加で、最初にファシリテーターや記録係と会って、徐々に打ち解けて、今回こうして、みんなと会うことができすごくうれしく思います。分科会は7人の中学生・高校生と僕たち2人の7人+2人ではなく、9名でできたことがすごくうれしいです。またどこかで会ったらよろしくをお願いします。



島村 眞依
神奈川県 高1



勝又 義友
岐阜県 高2



曾根 裕子
福岡県 高1



仲野 健太郎
福岡県 中2



高田 賢人
福岡県 中1



山口 奏良
鹿児島県 中3



寺田 俊毅
鹿児島県 中2

第4分科会『安全な川での体験活動』 ～知ることが大切～

メンバー

かつ・そら・けん・とし・たか・ひる・めい・あきら・しんぺー

体験

○ 体験活動で $\left\{ \begin{array}{l} \text{ライフジャケットの着用} \\ \text{熱中症対策(水分補給など)} \end{array} \right\}$ をする \rightarrow 『安全』に活動するため。

○ 生き物や水質調査をする
○ レスキュー訓練などの講習をうける \rightarrow 『川を知る』ため

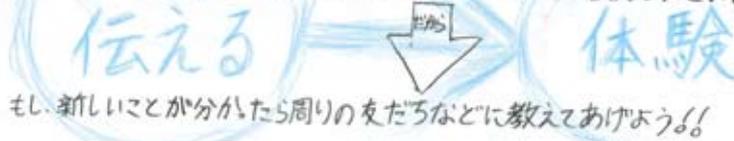
知る

○ 危険な環境を知る
○ 救助方法を知る
○ 安全な場所を知る

「なんでこのようなことを知る必要があるのか？」 \rightarrow 『昔は外で遊ぶことが多く、その中で危険を知ることができたが、今はそのような機会がほとんどなくなため』

伝える

私たちは、安全な体験活動について知ったらそれを誰かに伝えないといけないと考えた。



もし、新しいことが分かったら周りの友だちなどに教えてあげよう。

- 事前の講習をすべし
- 危険に対する対処法を学ぶべし
- 自然に合わせるべし

知ることが
大切
である!!



第5分科会

生活や産業に必要な水

水が足りない地域において、人間の生活や産業活動に必要な水を確保するために、子ども達ができること。

Members

発表の概要

「考える・興味を持つことの大切さ」



第5分科会の発表は、自分達の生活と水との関係について議論し、「食べる・豊か・生きる・楽しむ」生活のために、利用する水、そこから生じる課題について、自分たちで出来る対策について発表しました。

課題から解決の例として「自分たちが捨てたゴミが原因で汚れてしまった「かっぱの楽園(川)」を知り、周りのことを考えて清掃活動を続けたことによる成果を実感できると、さらにやる気が出る」という、生活の中の水の利用段階について、芝居形式で発表しました。

実行委員のコメント

- 何も活動をしていない人が活動をするには段階が必要。驚く→興味を持つ→知りたくなる→確信する→行動するを繰り返し働きかける必要がある。若い人には力がある。子どもはメッセージ性があり、一人でも効果があるので、自信を持って頑張してほしいです。
- テーマが難しく、議論中はたくさんの意見が出たはず。水質とゴミの議論になりがちだけど、水の量が少ないことは生き物や産業にとっても重要なことなので、視点を加えていってもらえたら良いと思う。



ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター
湯谷 啓明



記録係
友原 亜紗美

- とにかく手さぐりの3日間だった。2日目の途中で、もう限界だと思って焦っていたけれど、子どもたちが自分で話を進めている姿を見て、ほっと安心するとともに感動した。つらくても楽しくて、いろんなことが学びあえた3日間だった。子どもたちにとっても、そうあってほしいと思う。できればつらさは抜きにして。
- 1日目のアイスブレイクで空回りして疲れかけたけど、子どもたちの笑顔を見てすごく元気になり、3日間楽しんでやれました。2日目の夜遅くまで起こすことになって、申し訳ないと思ったけど、みんなの発表している姿を見て良かったと思いました。また来年来たいと思えるような分科会だったら良かったと思います。



門口 光司
茨城県 高2



小西 亜由美
滋賀県 高3



椿 夏澄
兵庫県 高3



村山 由樺
兵庫県 中2



重政 祐貴
広島県 中1



不破 翔子
愛媛県 高1



近藤 大地
鹿児島県 高2

生活と水の フローチャート

ファシリテーター
湯谷 啓明 (ゆん)
記録係
友原 亜紗美 (あさみ)

Xメンバー
門口 光司 (大将)
小西 亜由美 (あゆみ)
近藤 大地 (do)
重政 祐貴 (しげ)
椿 夏澄 (なつき)
不破 翔子 (しやこ)
村山 由樺 (ゆか)

利用

食べる

- ・イネ, 果実, 野菜を育てるための水
- ・牛乳, 鳥の卵を育てるために必要な水

豊かな

- ・飲める水を作る
- ・工場で使う水

生きる

- ・お風呂
- ・トイレ
- ・料理
- ・洗濯 等

楽しむ

- ・川で遊び
- ・フリ, キャンプ

問題

- ・農薬
- ・牛乳, 鳥の卵から出る糞

- ・工場で使った水をそのまま流すことによる汚染

- ・家庭排水 (洗剤, 油など) が合流している
- ・トイレから流れている

- ・ゴミのポイ捨て

対策

- ・無農薬野菜を食べる
- ・よいなどの作物を植える
- ・アイガモ農法

水質調査!

節水

- ・水のむだにしない
- ・雨水を使う
- ・節水缶
- ・お風呂の残り湯を洗濯に使う 等

呼びかけ

- ・地域にポスターなどで節水, ゴミ捨ての禁止を呼びかける

汚染防止

- ・油汚れはふき取る
- ・食べ残しはしない
- ・アクリルタワシ
- ・ごみ拾い

考える・興味を持つことの大切さ by 大将



第6分科会

水の歴史・文化

人類が育ててきた水に関わる歴史・文化を守り、後世に引き継ぐために子ども達ができること。

発表の概要

「宣言!! 限界突破」



第6分科会は、「温故知新」の切り口から、昔の良いところ、悪いところを話し合いました。そしてこれまでの歴史を振り返り、先を見通して活動することが大事であると気づき、昔の良いところを伸ばし、悪いところを改めて、今後の活動のスキルアップや、活動を継続することなど、活動を広めていくための個人的なアクションを発表しました。

そこで、今まで活動しながら感じていた「みんなの限界」から、今後限界を突破する「宣言!!限界突破」と力強く宣言しました。



実行委員のコメント

- 難しいテーマを短い時間でよくまとめたと思う。たくさんの方の中で良い例が選ばれたと思う。文化のにおいがもう少し出れば良いと思ったが、それは、中高生に川の文化が伝わっていないことであり、この文化を伝えることが大人の役割だと思う。
- いい切り口。上手にしぼっている。食洗機は確かに水をたくさん使うけれど、今は改良されている。そういうことももっともっと深く学んでほしい。

ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター
三橋 渉



記録係
下村 亮介



記録係
中野 千尋

- ファシリテーターがこんなに大変な役割だとは思わなかった。難しい議論で、どうとりまとめたらいかがわからなくなりましたが、最終的に子どもたちがそれを解決してくれて、子どもたちのがんばりや底力に感動した。とても悩んだ3日間だったが、価値のある3日間だった。
- 1日目のアイスブレイクでは、はしゃぎすぎたかなと思い、みんなに迷惑かけたかもしれませんが。分科会はみんながすごく頑張っているのでも、自分的には不甲斐ない気持ちでした。次、やる機会があれば、ピシッと情報共有したい。ピシッと議論を蓄えて、おなかの肉を落とします。
- 今回、初めて子どもの議論を見てみんすごいと思いました。自分たちの活動に自信を持って、やりたいことをやっていることがすごくうらやましかったです。途中、議論が行き詰ることがあったけれど、子どもたちだけで議論ができあがっていた時は、親離れの気持ちになり、切なくもありうれしくもありました。ここで得たパワーを、地元を活かしてください。

Members



桑川 紘慧
栃木県 高3



浅川 麗香
東京都 中1



足立 佳祐
岐阜県 中2



仲野 美穂
福岡県 高3



松尾 綾
福岡県 高2



佐竹 晃輔
福岡県 中2

第6分科会「水と歴史・文化」

title 宣言!! 限界突破

7p377-79 三橋 滄
記録係 中野 今尋 下村 亮介

- メンバー
- 栃木 桑川 紘慧 (ひろ)
 - 東京 浅川 麗香 (れいか)
 - 岐阜 足立 佳祐 (いづけん)
 - 福岡 佐竹 晃輔 (こうすけ)
 - ・ 松尾 綾 (かすみ)
 - ・ 仲野 美穂 (みほ)



ヤマオン



まずは 温故知新

- ・ 地域の慣れ、文化、知恵、歴史(良い所、悪い所)
 - ②) もったいない精神、使い回しの文化、腹八分目
 - 水の汚染、公害 ecc...
- 方法: 今と昔を比べる、昔の人に聞く。

先を見通して活動する

昔の良い所や今に使える所をピックアップする

3つのAction!

- 全体では...
- ・ 活動のスキルアップ、レベルアップ
 - ・ 活動を継続する
 - ・ 活動を広げていく

- 個人では...
- こうすけ、れいかちゃん: ゴミを減らす
 - いづけん: 鶴岡の環境を守りつつ地域の活性化
 - かすみ: ホテルと共存できる環境作り
 - ひろ: 炭の活動場作り
 - みほ: 自分の活動で「水」を考えたもらおう

そこで!! 6人で宣言します😊

限界突破!!!!

みんなの限界

- こうすけ、れいかちゃん: 1人で拾いきれない...
- いづけん: 中間が必要...
- かすみ: スクールが大きい
- ひろ: 場所と中間が必要
- みほ: 中々みんなに「水のこと」を分かってもらえない



そのために...



ジボちゃん

みんなの感想

れいかちゃん
色々と言合ったり、悩みもあって
良い経験ができた。これらのコミュニ
ケーションにも繋がっていきたい。

こうすけ
今回、色々な考えを持つ人と交流が
できて良かったです。今回学んだこと
今後の活動に活かしたいです。

みほ
今回、最後のCWWF-Fで有意義に
過ごせて良かったです。来年に参加者として
参加できないのが、さびしいけど、
これからの頑張りたいです。

ひろ
グループの活動を通して、
色々吸収できた。今度は
自分から発信していきたいように
もっと活動したい。

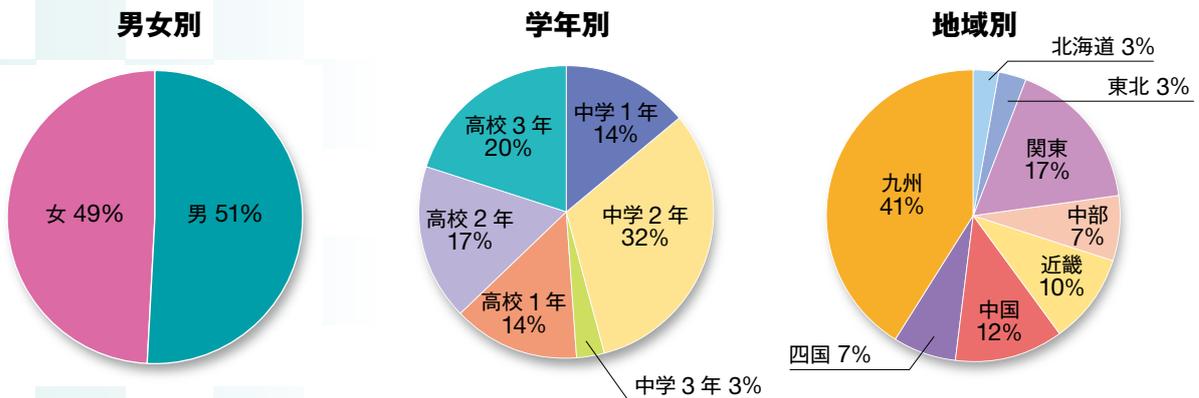
いづけん
仲間達から、たくさんのご意見を
知りました。これから、これらの
ことを取り入れ、考え、自分から
さらに発信していきたいです。

- ・ 自分の考えを相手に伝える
- ・ コミュニケーションを図る

かすみ
今回、色々な人の活動を知って、
多くの刺激を受けた。
これからそれを自分の活動に
活かしていきたいです。



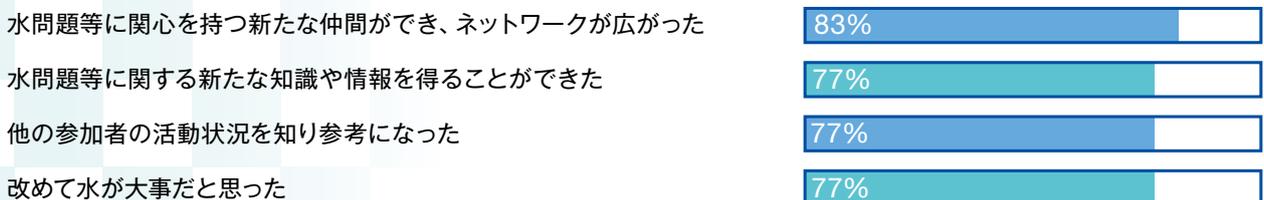
世界子ども水フォーラム・フォローアップin岐阜2009 参加者データ



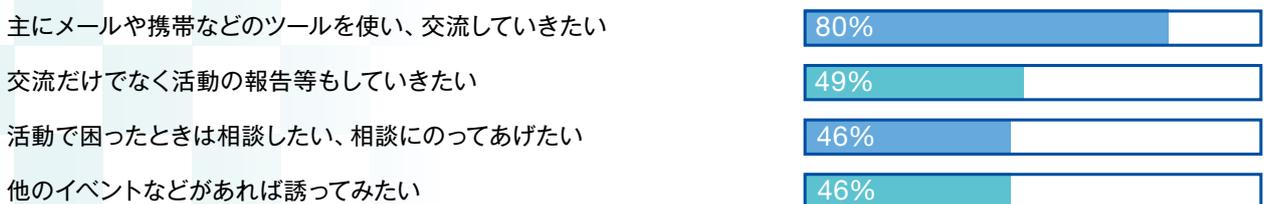
世界子ども水フォーラム・フォローアップin岐阜2009に参加して (大会のアンケート結果より)

世界子ども水フォーラム・フォローアップin岐阜2009の参加者41名に、参加しての感想等についてアンケートを行いました。ほとんどの参加者は、参加したことが、なんらかの刺激となり、活動意欲へとつながっていることが分かりました。また、今大会が同じ活動の仲間としてのネットワーク形成のきっかけづくりにも寄与していると考えられます。

Q.世界子ども水フォーラム・フォローアップin岐阜2009に参加して、何が得られたと感じていますか？



Q.他の参加者と今度どのように交流していきたいですか？



参加者からのコメント

- フォローアップ大会を通じて、たくさんの県外の人と仲間になり、協力関係が生まれ、自分自身の活動にかける思いや水に対する考え方などに大変刺激を受けました。
- 県内に川のともだちがいないのでさみしかったです。フォローアップのおかげで1人じゃないと思えるし、みんなの活動を聞いているともっともっとがんばろうと思った。
- 学校で自然体験部を作って、自然に楽しく興味を持ってもらいたい。
- ブログとメーリングリストをトルコ大会出場メンバーを中心につくりました。

関連ウェブサイトのご紹介

(財)河川環境管理財団

子どもの水辺サポートセンター

カワナビ 国土交通省 河川局

川に学ぶ体験活動協議会 (RAC)

<http://www.kasen.or.jp/>

<http://www.mizube-support-center.org/>

<http://www.milt.go.jp/river/link/kawanabi/>

<http://www.rac.gr.jp/>

参加者一覧

県別	名前	性別	学年	分科会
北海道	會田 成美	女	高3	3
青森県	石澤 純人	男	高2	1
茨城県	門口 光司	男	高2	5
茨城県	石坂谷 沙織	女	中2	2
茨城県	是國 明星	女	中1	3
茨城県	八巻 宣仁	男	中1	3
栃木県	桑川 紘慧	女	高3	6
東京都	浅川 麗香	女	中1	6
神奈川県	島村 眞依	女	高1	4
岐阜県	勝又 義友	男	高2	4
岐阜県	三輪 圭吾	男	高1	2
岐阜県	足立 佳祐	男	中2	6
滋賀県	小西 亜由美	女	高3	5
兵庫県	椿 夏澄	女	高3	5
兵庫県	岩 橋 希	男	中2	1
兵庫県	村山 由樺	女	中2	5
広島県	戸田 竜哉	男	中2	2
広島県	村上 誠一郎	男	中2	3
広島県	重政 祐貴	男	中1	5
山口県	吉野 智美	女	中3	1
山口県	木原 舞衣	女	中2	1
愛媛県	西川 有美	女	高1	3
愛媛県	西山 鈴	女	高1	2
愛媛県	不破 翔子	女	高1	5
福岡県	荒木 龍太郎	男	高3	1
福岡県	坂本 裕基	男	高3	2
福岡県	仲野 美穂	女	高3	6
福岡県	川原 大基	男	高2	1
福岡県	松尾 綾	女	高2	6
福岡県	曾根 裕子	女	高1	4
福岡県	佐竹 晃輔	男	中2	6
福岡県	出口 巧実	男	中2	3
福岡県	仲野 健太郎	男	中2	4
福岡県	高田 賢人	男	中1	4
福岡県	高橋 昂大	男	中1	2
鹿児島県	近藤 大地	男	高2	5
鹿児島県	山口 奏良	男	中3	4
鹿児島県	近藤 直喜	男	中2	3
鹿児島県	寺田 俊毅	男	中2	4
鹿児島県	中富 由乃	女	中2	1
鹿児島県	廣瀬 拓哉	男	中2	2

実行委員・運営スタッフ等一覧

役割	名前	性別	所属
実行委員長	藤田 裕一郎	男	岐阜大学流域圏科学研究センター 教授
実行委員	加地 菊子	女	(社) ガールスカウト日本連盟 岐阜県支部長
実行委員	可児 幸彦	男	木曽三川フォーラム 会長
実行委員	中嶋 章雅	男	国土交通省河川局河川環境課長
実行委員	山根 尚之	男	国土交通省中部地方整備局河川部長
実行委員	松川 禮子	女	岐阜県教育委員会教育長
実行委員	金森 吉信	男	岐阜県県土整備部長
実行委員	高木 等	男	岐阜県全国豊かな海づくり大会推進事務局長
実行委員	宮尾 博一	男	河川環境管理財団子どもの水辺サポートセンター長
アドバイザー	田中 里佳	女	河川局河川環境課河川環境教育係長
講習会講師	守随 純子	女	(社) ガールスカウト日本連盟 理事
ファシリテーター	池田 幸子	女	大阪大学 大学院
ファシリテーター	小野 寺 希	女	酪農学園大学
ファシリテーター	坂本 貴啓	男	筑波大学
ファシリテーター	中尾 浩子	女	横浜市立大学
ファシリテーター	三橋 渉	男	大阪府立大学 大学院
ファシリテーター	湯谷 啓明	男	京都大学
記録係	荒川 桃子	女	慶応義塾大学
記録係	川口 晋平	男	筑波大学
記録係	下村 亮介	男	九州工業大学
記録係	鈴木 陵	男	関西学院大学
記録係	津谷 瑛里	女	慶応義塾大学
記録係	友原 亜紗美	女	武蔵野美術大学
記録係	中野 千尋	女	大阪府立大学
事務局	清水 晃	男	河川環境管理財団 研究第一部長
事務局	並木 和弘	男	河川環境管理財団 研究第一部
事務局	上 成 純	女	河川環境管理財団 研究第一部
事務局	菅原 一成	男	河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター
事務局	花田 須磨子	女	河川環境管理財団 研究第一部
事務局	橋本 仁美	女	河川環境管理財団 研究第二部
事務局	平光 文男	男	河川環境管理財団 名古屋事務所 所長
事務局	近藤 繁	男	河川環境管理財団 名古屋事務所 業務第二係長
事務局スタッフ	佐藤 大地	男	日本大学
事務局スタッフ	灰塚 果苗	女	日本大学

※ 2009年7月31日現在





世界子ども水フォーラム・ フォローアップ 岐阜 2009

事務局：(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター
〒103-0001東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル2F
TEL.03-5847-8307 FAX.03-5847-8314

(財)河川環境管理財団 <http://www.kasen.or.jp>
子どもの水辺サポートセンター <http://www.mizube-support-center.org>

